

8回目 for文

今日の講義で学ぶ内容

- for 文
- 変数のスコープ
- for 文の入れ子

繰り返し文 1 for 文

**for 文** 最初に一度だけ初期化の式を処理します  
条件が true の場合、文を実行し、更新の式を処理して繰り返します  
条件が false の場合、for 文を終了します

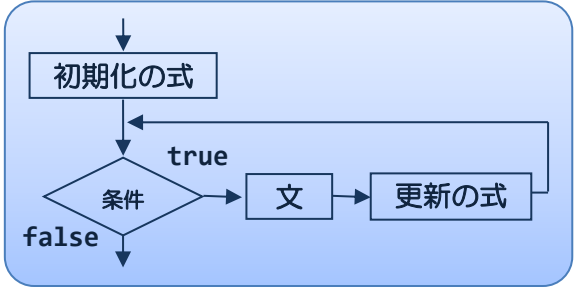
条件は boolean 型で、関係演算子で表現される式などを記述します

```
for(初期化の式 ; 条件 ; 更新の式) 文
```

セミコロンです

コード例 | `for(a=0;a<10;a++)b++;`

📄 条件は常に文を実行する前に処理されます (前判定ループといいます)



for 文はブロックを用いて次のように記述することもできます

```
for(初期化の式 ; 条件 ; 更新の式) {文1 文2 ... }
```

または、次のように書くと読みやすく分かりやすいでしょう

```
for(初期化の式 ; 条件 ; 更新の式)
{
    文1
    文2
    :
}
```

## ソースコード例

ソースファイル名 : Sample8\_1.java

```
// for 文の実行
class Sample8_1
{
    public static void main(String[] args)
    {
        int i;

        // 変数 i を一つずつ増やし、1 から 5 になるまで繰り返す
        for(i=1; i<=5; i++)
            System.out.println(i+"回目を繰り返しています。");

        System.out.println("繰り返しが終わりました。");
    }
}
```

## 実行画面

```
1回目を繰り返しています。
2回目を繰り返しています。
3回目を繰り返しています。
4回目を繰り返しています。
5回目を繰り返しています。
繰り返しが終わりました。
```

## ソースコード例

ソースファイル名 : Sample8\_2.java

```
// 1.0 から 3.0 まで 0.5 刻みでの合計を求める
class Sample8_2
{
    public static void main(String[] args)
    {
        double di;
        double sum=0; // 合計の計算用

        // 変数 di を 1.0 から 0.5 ずつ増やし 3.0 になるまで繰り返す
        for(di=1.0; di<=3.0; di+=0.5)
            sum += di; // sum = sum + di; と同じ

        System.out.println("1.0 から 3.0 まで 0.5 刻みでの合計は"+sum+"です。");
    }
}
```

## 実行画面

1.0 から 3.0 まで 0.5 刻みでの合計は 10.0 です。



**for 文の初期化の式、条件、更新の式は省略可能です**

省略した場合、それぞれ次のような動作をします

- ・初期化の式 → 初期化ではなにも実行されません
- ・条件 → 常に true になります
- ・更新の式 → 更新ではなにも実行されません

たとえば、

```
for( ; ; )
{
    :
}
```

は無限ループです




**for 文の初期化の式と更新の式には式文という分類の式を書きます**

式文とはセミコロンをその後につけて文とできる式であり、代入演算子、インクリメント・デクリメント演算子を用いた式があります


たとえば、

```
a++;
b=5;
```

 for 文の初期化の式と更新の式では“,”カンマで区切り 2 つ以上の式を記述できます  
カンマで区切られた式は、左から右へ順番に処理されます

```
// 複数の変数の初期化・更新をおこなう
class Ext8_1
{
    public static void main(String[] args)
    {
        int i, j;
        // 2つの変数の初期化
        for(i=1,j=1; i<=5; i++,j+=2) // カンマで区切る
            System.out.println(i+" "+j+"="+i+j);

        System.out.println("終わり");
    }
}
```

 カンマで区切り複数の式を記述できます

実行画面

```
1+1=2
2+3=5
3+5=8
4+7=11
5+9=14
終わり
```



**for 文の初期化の式に変数の宣言を含めることもできます**

変数を宣言するのと同じ要領で、1つまたは複数の変数を宣言、初期化することができます

// 変数の宣言と初期化を行う

```
class Ext8_2
```

```
{
```

```
    public static void main(String[] args)
```

```
    {
```

// 変数の宣言と初期化

```
    for(int i=1; i<=5; i++)
```

```
        System.out.println(i+"回目を繰り返しています。");
```

// 同一の型で複数の変数の宣言と初期化を行う

```
    for(int i=1, j=2; i+j<=5; i++, j++)
```

```
        System.out.println(i+" "+j+"="+i+j);
```

// 複数の型の変数の宣言と初期化を行う (エラー)

```
//    for(int i=1, double dj=2; i+j<=5; i++, j++)
```

```
//        System.out.println(i+"回目を繰り返しています。");
```

```
    }
```

```
}
```

初期化の式

変数の宣言と  
初期化ができます

初期化の式

同一の型の変数の  
宣言と初期化がで  
きます

異なる型の変数の  
宣言と初期化はで  
きません

この場合は for 文  
に入る前に宣言す  
るとよいでしょう

## 実行画面

1 回目を繰り返しています。

2 回目を繰り返しています。

3 回目を繰り返しています。

4 回目を繰り返しています。

5 回目を繰り返しています。

1+2=3

2+3=5

## 変数のスコープとは


その変数を参照可能なコードの上の領域のことです  
スコープの開始は、変数の宣言の位置です  
スコープの終了は、それが属するブロックの終わりです


```
// 変数のスコープ
class Ext8_3
{
    public static void main(String[] args)
    {
        int i=10; // main メソッドブロックの最後までがスコープ
        if(i==10)
        {
            int j=10; // if 文ブロックの最後までがスコープ
            System.out.println(i); // OK
            System.out.println(j); // OK
        }
        System.out.println(i); // OK
        System.out.println(j); // コンパイルエラー
    }
}
```

変数 i のスコープ

変数 j のスコープ

 同じスコープ（ネストも含む）内で同名の変数は宣言できません

 同じスコープ内に同名の変数が宣言されていると、  
「変数○○は△△で定義されています。」  
というコンパイルエラーがでます

 for 文の初期化の式で宣言される変数のスコープは、  
• 初期化の式（その変数以降（右側））  
• 条件  
• 更新の式  
• for 文のブロック  
です

たとえば、次の for 文で変数 i のスコープは点線内部です

```
for(int i=1; i<=5; i++)
{
    System.out.println("線返し番号");
    System.out.println(i);
}
```



次のように for 文を記述するとどうなるでしょうか?

// for 文のよくあるミス

```
class Ext8_4
```

```
{
```

```
    public static void main(String[] args)
```

```
    {
```

```
        int i=0;
```

// for 文のブロック { } を忘れたら?

```
        for(i=1; i<=5; i++)
```

```
            System.out.println(i+"回目を繰り返しています。");
```

```
            System.out.println("次の繰り返しに進みます。");
```

```
        System.out.println("処理を終了します。¥n");
```

// for 文ブロック前に ; (セミicolon) を入れてしまったら?

```
        for(i=1; i<=5; i++);
```

```
        {
```

```
            System.out.println(i+"回目を繰り返しています。");
```

```
            System.out.println("次の繰り返しに進みます。");
```

```
        }
```

```
        System.out.println("処理を終了します。");
```

```
    }
```

```
}
```

for 文のブロック { } がない場合

次の 1 文が for 文の繰り返して  
実行する文と解釈されます

単独のセミicolon

文はセミicolonでおわ  
る処理です  
単独のセミicolonは処  
理のない空の文です

繰り返して実行する  
文が空の for 文と解釈  
されます  
次に続くブロックは  
for 文の繰り返しに含  
まれず、常に実行され  
る通常の文です

## 実行画面

```
1 回目を繰り返しています。  
2 回目を繰り返しています。  
3 回目を繰り返しています。  
4 回目を繰り返しています。  
5 回目を繰り返しています。  
次の繰り返しに進みます。  
処理を終了します。
```

```
6 回目を繰り返しています。  
次の繰り返しに進みます。  
処理を終了します。
```

for 文は、1つの文です

for 文を他の for 文に入れることができ、多重の繰り返しを処理できます

```
for(初期化の式 ; 条件 ; 更新の式) for 文
```

または、次のように書くと多重の繰り返しが分かりやすいでしょう

```
for(初期化の式1 ; 条件1 ; 更新の式1)
{
    for(初期化の式2 ; 条件2 ; 更新の式2)
    {
        文
        :
    }
}
```

#### 多重 for 文の動作

外側の for 文が一回繰り返される毎に内側の for 文が処理されます

 2~3重の for 文の入れ子はよく使われますので慣れておくとよいでしょう

ソースコード例

ソースファイル名 : Sample8\_3.java

```
// for 文のネスト構造
class Sample8_3
{
    public static void main(String[] args)
    {
        int i, j;

        // 2重の繰り返し
        for(i=0;i<5;i++) // 変数 i を 0 から 4 まで繰り返す。
        {
            for(j=0;j<3;j++) // 変数 i を繰り返す度に 変数 j を 0 から 2 まで繰り返す。
            {
                System.out.println("i は"+i+" : j は"+j);
            }
        }
    }
}
```



## 実行画面

```
i は 0 : j は 0
i は 0 : j は 1
i は 0 : j は 2
i は 1 : j は 0
i は 1 : j は 1
i は 1 : j は 2
i は 2 : j は 0
i は 2 : j は 1
i は 2 : j は 2
i は 3 : j は 0
i は 3 : j は 1
i は 3 : j は 2
i は 4 : j は 0
i は 4 : j は 1
i は 4 : j は 2
```

## ソースコード例

ソースファイル名 : Sample8\_4.java

```
// 九九の表
class Sample8_4
{
    public static void main(String[] args)
    {
        int i, j;

        // 九九を計算して表として出力する
        for(i=1; i<=9; i++) // 変数 i を 1 から 9 まで繰り返す。
        {
            for(j=1; j<=9; j++) // 変数 j を 1 から 9 まで繰り返す。
            {
                // i 段 j 列目の九九を計算
                System.out.print(i*j+"¥t");
            }
            // 1 段毎に改行を入れる
            System.out.println();
        }
    }
}
```

## 実行画面

1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	16	24	32	40	48	56	64	72
9	18	27	36	45	54	63	72	81

### ■ 今日の講義のまとめ ■

- for 文は繰返し処理を記述します。

- for 文は、初期化の式と条件、更新の式、繰返し対象の文からなります。初期化の式は最初に一度だけ処理されます。条件が真である間、文と更新の式が繰返し処理されます。条件が偽になると for 文は終了します。

- for 文は、前判定ループです。前判定ループとは、対象となる文を処理する前に条件が評価・判定される繰返し処理のことです。

- 変数のスコープとは、その変数を参照可能なコード上の領域のことです。

- for 文の中に for 文を入れることで多重の繰返しを処理できます。

